

となみ芸術文化友の会
「友の会だより」

第26号

2012年12月

発行 となみ芸術文化友の会事務局 (砺波市美術館内)
939-1383 砺波市高道145-1 (0763-32-1001)

『奈良平城京 仏像と紅葉の旅』

日程 11月13日(火)~14日(水)

友の会会員 小野田澄子



東大寺での記念撮影

秋篠寺の南門から続く石畳を進むと、木立の間から差し込む陽の光に映え、深緑の苔が目にしみる。思わず歩みをとめ深呼吸をする。以前、秋篠寺を訪れた時は、優美でふくよかな伎芸天像に惹かれ、しばしその傍らで時を過ごした。今回は本堂の外観や本堂内に安置されているほかの仏像ともゆっくり対面した。薬師如来の両脇に並ぶ十二神将は、小ぶりながら動きのあるリアルさとコミカルで豊かな表情がかわいい。

となみ芸術文化友の会研修旅行には今回初めて参加させていただいた。一日目は、奈良市写真美術館で入江泰吉の心象風景「古色大和路」展を鑑賞し、散策しながら新薬師寺へ。本堂には国宝の薬師如来と如来を円陣に取り巻き、十二神将が安置されている。兜をかぶった4体以外は、現代の若者のヘアースタイルにもあるような躍動感あふれる炎髪である。敷地内の庭では、光のマジックというべきか陽の光を受けて緑と赤のコントラストの美しい紅葉にうっとり。次の奈良国立博物館なら仏像館でもたくさんの仏像を観て、いい気分浸っていたところ、天候が一変して突然の雷雨になった。明日は晴れますようにと祈りながら、宿泊する奈良ロイヤルホテルに向かった。温泉付きのホテルで、夕食は思いがけなく豪華な会席料理を堪能した。



夕食での会席料理

二日目は、昨夜来の雨もあがり、絶好の行楽日和になった。紅葉も真っ盛りである。東大寺ミュージアムでは、法華堂から移された天平仏の傑作である本尊の不空罽索観音立像と日光・月光菩薩像を間近に観ることができて感激。大仏殿では、子どもたちが大仏の鼻の穴の大きさにあけた柱の空間をくぐっていた。

秋篠寺を経ての松柏美術館では、特別展「つらつら椿」を鑑賞。古林古径や安田靉彦などの椿絵に魅せられた。

吉田武雄会長をはじめ22名参加のとなみ芸術文化友の会の旅行は、和やかな雰囲気と無理のない日程で好評だった。お世話いただいた関係者の方々に感謝するとともに、新しい友だちを誘い来年もまた参加したいと思っている。

『モノクロからカラーへ』

「東松照明の写真」 会期 11月10日(土)~12月16日(日)

砺波市美術館学芸員 末永忠宏

昭和50年、東松照明は沖縄の写真の集大成である「太陽の鉛筆」を発表。そこでは被写体の範囲も広がり、モノクロに加えてカラーが入ってくる。そのことについて東松自身は次のように語っている。